

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

1 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

[総合評価とコメント]

近年注目を集めている PM2.5 は、人体影響の観点から、実態把握と対策実施が急務となっている。

本課題は他の地公研に先がけて、構成成分の詳細な把握と発生源解析を中心として研究を進めているもので、既に 26 年度までの先行課題の中で、多くの成果が上げられている。

26 年度までの結果から、周辺都県との間の輸送が重要な検討事項であることが判明しており、また発生源種類だけでなく、発生源位置の把握の必要性に対応できていない点が課題となっている。

27 年度からの新規課題では、発生源の種類と地域の解明を目的として、他機関との連携により広域的な解析を行うことが主眼となっており、時宜を得た課題設定と評価できる。

本研究課題で使用するモデル関係の技術は、他の大気汚染現象にも適用可能なものであることから、センターの研究面での技術向上にも資することが期待できる。そのため、可能な限り多くのスタッフがモデル計算作業に直接関わることができるような研究運営管理が望ましい。

国立環境研究所・他機関との連携は重要。ただし、無駄な重複が無いよう、役割分担・調整は入念に進めていただきたい。発生源データには、既存の様々なデータを活用し、省エネ法のデータ等も活用すべき。

重要な研究テーマであると認識する。

他機関と連携し、観測とレセプターモデルやシミュレーションモデルという解析の両面から取り組むという計画は評価できる。

常時監視のみではモデル解析のデータとして数、あるいは、時間分解能の面から不足することも考えられる。高濃度発生時だけでなく、解析の必要度に応じて試料採取計画を変更するなど、モデル解析の結果と観測計画の連携で研究計画が進むことを期待する。

モデルによる解析結果や解釈には他の方面からも検証することを考慮して進めて頂きたい。

平成 26 年度までの研究で、大きく成果が得られており、新たなモデル等の発展をすることで、発生源の位置推定まで試みるという、研究レベルの高さ、また予想される結果の社会的意義は高いものとする。PM2.5 はアセスにも将来的に項目として加わる可能性もあると伺っており、行政研究として重要度の高いものとする。

外部との共同研究・調査の取り組みも推進し、広く関東圏の連携ができることも期待される。

| (数値的評価) | | 評価者 4 名 | | | | |
|------------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 評価の内容 | 評価項目 | ランク | | | | |
| 課題設定の妥当性 | 背景と必要性 | 5 (3 人) | 4 (1 人) | 3 (0 人) | 2 (0 人) | 1 (0 人) |
| | 優先性 | 5 (3 人) | 4 (1 人) | 3 (0 人) | 2 (0 人) | 1 (0 人) |
| 計画の立案と実施方法 | 研究内容 | 5 (2 人) | 4 (2 人) | 3 (0 人) | 2 (0 人) | 1 (0 人) |
| | 計画の妥当性 | 5 (0 人) | 4 (3 人) | 3 (1 人) | 2 (0 人) | 1 (0 人) |

ランクは、5 点満点の評価で 5 (優) ~ 1 (劣)